

すみれ草

K・I

山路来て 何やらゆかし すみれ草
季は春で芭蕉の句である。瑞々しく明るくて解りやすく、私の好きな句の一つである。今年には新型コロナウイルスのせいで外出を避け出不精の一年であった。体調も良く、高校時代の友人と電話して数年ぶりに太白登山を予定していたのに中止のやむなきに至ったのだ。



すみれはタチツボスミレだと思っけれど、どの野山でも見かける山野草の一つで、わが家の小庭でも楚々と咲いているのを目にする。しーんと静まり返った木立の中の細道を歩いて来て、ふと目にする小さな淡い紫色の花が三、四片の葉をつけて群生している。

ほっとする懐かしいような心の安らぎに、思わず立ち止まって暫く見入ってしまう。飽かず眺めている間は、コロナも学術会議も無く安心してしまふのである。

※タチツボスミレ画像は鶴ヶ谷市民センターホームページ「ひょうたん沼の四季」よりお借りしました。



鶴ヶ谷ことぶき大学通信

令和二年度「鶴ヶ谷ことぶき大学」閉講にあたり

鶴ヶ谷市民センター館長 前田 義信

令和二年は、新型コロナウイルスが世界に拡大した年。ことぶき大学も開始時期・回数・内容を変更するとともに、感染予防のためホールを利用して身体的距離を確保するなど三密回避に努めつつ開催しました。従来の受講者同士による会話や交流に制約を受ける状況下での開講となりましたが、皆さんの笑顔と元気な様子を見ることができ、制約の克服に努め開講して良かったとの思いでおります。

令和三年の年明けは、新型コロナウイルス第三波により、ざわついている感じがございしますが、皆様にとって、心穏やかな素晴らしい一年になりますように祈っております。今年には先ず、コロナウイルス第三波の鎮静のため、新しい生活様式の定着を図り、みんなで協力して三密回避に努めることが大切だと思っております。二月下旬頃からワクチン接種が始まるとの報道や治療薬の開発に期待しつつ「うつされない」「うつさない」の基本的行動を一人一人が実践し、一日でも早く新型コロナウイルス感染症を克服することを願っております。そして、一日でも早く日常的な会話ができる生活や地域全体が盛り上がるような交流が再開され、みんなが元気で笑顔あふれる年になるように願っております。

令和三年度の「ことぶき大学」は、五月の第三水曜日に開講する予定です。まだまだ制約が残っている可能性もありますが、皆さんの協力を得ながら乗り越えていきたいと考えております。

令和三年度の開講式で、笑顔で再会できることを楽しみにしています。



川柳コーナー A・K様

令和3年1月発行
公益財団法人
仙台ひと・まち交流財団
鶴ヶ谷市民センター
〒983-0824
仙台市宮城野区鶴ヶ谷 2-1-7
☎022-251-1562



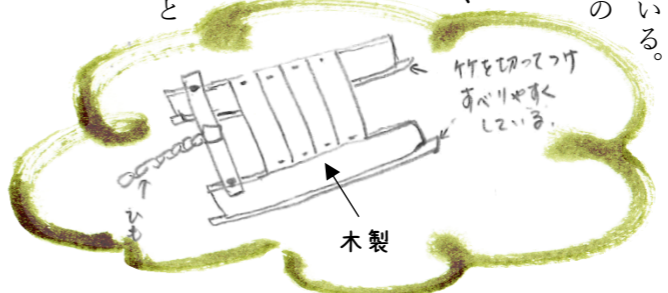
笑顔に一言

「こころ旅」風に...

K・S

私のふるさととは、関東の北部、福島と栃木に隣接する町です。三十年くらい前の読売の日曜版に「関東のチベット」と紹介され、おもわず笑ったことがあります。近くに日本三大名瀑の一つ「袋田の滝」があり、遠く東の方を見上げると六五四mの男体山、その中腹には、水戸藩の天狗党が集まっていた場所がある。(小学校の時、担任が話していた)冬には、シガ(氷)が流れる久慈川。子供の頃、川原で遊ぶのが好きでした。遊び場は、戦没者の霊を祭った「忠魂塔」の前や、その先にある長福寺の境内。山門は、町の文化遺産になっている。父親が作ってくれた私専用のそりでよく、遊んでいたものである。

実家は、今は無人となり、訪れる機会も少なくなりましたが、しみじみと思ひ出される場所でもあります。卒業した大子中学校の当時の校歌は、古閑裕而作曲、西條八十作詞だったと思います。よく、うたわされました。



立冬の珍客

T・K

散歩に出た家人が暗くなりかけても帰ってこない。少々心配になってきた時玄関先で話し声がするので出てみれば大きなガマ蛙が鎮座していた。「寒いのになんで今頃目を覚ましたの?とガマチャンと話していたんだヨ」とのこと。立冬なのに日中は二十度を越える暖かさだったので季節を間違えたのかな?と思ったら夜遅くまで居たので来春又元気に逢いましょうねと、庭の植込みにお引き取り願った。何か良いことあるんだよ!と聞いたので老い二人期待をこめて再会の春を楽しみにしているこの頃です。

先日、笑って話して元気になる。老人にとって、有難い講座であった。ところで、笑顔には骨があること。口角を上げると、自然に笑顔が作られるのです。自分も一人暮らしで、気付けば、笑顔も忘れがちな、この頃である。ところで、笑顔といえば、十三歳の頃、遠戚の商家に手伝いに遣らされる事があって、その商家の女主人は、六十歳ぐらいで口角を上げて、笑って、いたが、目が笑っていないのが、今でも強く印象に残るのだった。又、世間で言う美男、美女ほど、怒ると、すごい形相に、恐ろしく思った、こともあって、美人ほど笑顔が大切という、リスクが伴う苦勞もあるう、出来れば子供の頃から笑顔が可愛いと、育てられることで、自然と身に付くと、思うが、どうで、あろうか。

K・I

難しい日本語

S・A

「やまとのくには、言霊の幸ふ国」と語り継ぎ、言ひ継がいけれ……。

我々の住む「鶴ヶ谷」の地名表記は

「ケ」で、隣の自由ヶ丘などと共に地名の「ケ」は大変多い。南相馬市・桐生市・萩市の「つるがや」も「ケ」である。これは片カナの「ケ」でなく、まして平かなの「け」でもない。パソコンにもワープロも変換できず泣いている。最も例外もある、現在でも学校と消防署は「鶴谷」と表記し、「ケ」ぬきである。そして江戸時代は「鶴ヶ谷村」とケでなくカの時もあった。一方、泉区の「鶴が丘」や太白区の「松が丘」など僅かに「が」もみられる。団地入口に餅屋さんがある、店の外の幟に「ずんだ餅」とあり、入口の引戸には「づんだ餅」とある、同じ物である。

NHK仙台放送局の天気予報担当者に、篠原正と言う人がいる。

この原の字は「厂」に泉の原ではなく、上に「が」がない、これもパソコン泣かせである。

註：機会があれば、以上のナゾ解きを!!

ことぶき大学と私

N・E

ことぶき大学の受講生の皆様今日は。お元氣のことと信じております。



自然豊かな公園を、水浴びをしたりできる場所です。『バードバス』を設置しました。バードバスは鳥の水飲み場だったり水浴びをしたりできる場所です。

皆様のコミュニケーションの場として活用していただきたくチームで作りました。「チームビルディング」という言葉があります。一人では達成できないものをチームで取り組み目標実現に向かうこと。まさに、今回のバードバスは太田代表の指導の下、皆が協力し合いながら切磋琢磨し、ワンチームで出来たバードバスです。携わることができたこと、素晴らしい体験ができたことが財産となりました。

また、鶴ヶ谷市民センターの前田館長はじめセンターの皆様、コロナ禍によるさまざまなお対応に感謝いたします。今後も宜しく願っています。末筆になりましたが、ことぶき大学の素晴らしい仲間のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

『生活の匂いと方言』の化石

Y・N

東京の研修センターで社員教育を担当していた時。自己紹介で出身地は門構えに水と二文字目が上と書かれた宮城県の一漁村が私の故郷で読み方は「ゆりあげ」と読みます。と黒板に書いて自己紹介をしていた。その閑上の街 3・11東日本大震災で被害を受けた閑上の町。肉親・友人・知人・住宅・漁船・等々全てを奪った大津波、寒さと冷たい水の中、互いに励まし合い、必死に逃れ助かった人達は親戚・友人・知人を頼った。数年後には被災した住宅・建物は解体され閑上の街全体を嵩上げし再開発が始まった。新しくなった街は昔の面影はなくなっていた。この盛り土の下には「昔の閑上」の生活の匂いとこの街「特有の方言」が埋まっている。後世この地を発掘したら「昔の閑上の生活の匂いと方言」が化石となって出て来るでしょう。昔ここに「閑上という街」があったのだから!

苦にならない無理をはじめよう

―流れる水は澄む。人も動くことで

リフレッシュする。

T・N

「生きることは呼吸することではない、行為することである」これは、フランスの思想家ジャン・ジャック・ルソーの言葉である。

人生八〇年の時代、医学の進歩によって誰でも長寿を手にすることができるようになった。しかし、病気で寝たきりになり、たくさんの管を体につけて身動きもできずにベッドの上にいる状態なら、長寿といえるだろうか。たんに命を長らえているだけという人もいるかもしれない。ルソーがいうように、人生で大切なのは「行為」することであり、ただ生きていさえすればいいというものではない。健康で明るい人生を送ってこそその長寿であり、生きていく甲斐があるというものである。

では健康で明るく暮らすにはどうしたらいいのだろうか。一般に健康で明るく暮らしている人は、人とのふれあいを大切にし、生きがいといえるものを豊富にもっているものである。この人たちは、次のような特徴がある。



なんらかの仕事を持ち、それが社会や人の役に立っているというプライドをもっている。

同性、異性、年齢を問わず大勢の人とつきあっている。自分に安らぎや気晴らしをもたらす趣味を持ち、楽しんでいる。好奇心旺盛である。なんでも見てやろう、聞いてやろうという姿勢でよく旅行などにもよく出かけている。

「どうにかなるさ」というおおらかな精神の持ち主である。自分の足でよく歩く。オシャレである。どれも楽しそうだ。かつ誰にでも気軽にできそうなことばかりである。これらのことを頭に思い描きながら、人生を楽しく健康に送る秘訣として、趣味に没頭していただきたい。

一つに熱中するのはいいことだが、熱中することをたくさんもつのはもつといい。行為の楽しさにひたつていけば、心はプラス感情に満たされる。そういうふうにして人生八〇年を生きていくことができれば、もはやなにもいうことない。

※筆者は本年一月満九十歳の誕生に当り不躰な呼び掛けとなりましたがお許しの程お願い申し上げます。敬具

ことぶき大学 思い出の散歩道

投句者 鶴谷住人

川柳その一 (課題 思い、人の温もり) 誰にでも 心輝く 舞台あり。

その二 (課題 がんばる、大丈夫) 三密吐く コロナに負けず 夢叶う。

その三 (課題 イライラ、むかむか) イライラは 自己中心の 変り姿。

その四 (課題 太る、痩せる、) おいしいもの 食べる、口

その五 (課題 盆、お布施、香典返し) 生家の墓 改装ピカピカありがとう。

令和二年十二月吉日

以上。